

関連する標準化活動の動向

１．システムのアーキテクチャ等に関する標準化動向

ITU-T(国際電気通信連合 電気通信標準化部門)において、RFID等のタグ情報の読み込みをきっかけとして提供されるネットワーク型のマルチメディア情報サービスに関する要求要件事項である「F.MID: タグを用いた識別によるマルチメディア情報へのアクセスサービスとその要件 (F771)」および、それを実現するためのアーキテクチャである「H.MID: ID タグを用いたマルチメディア情報へのアクセスシステムのアーキテクチャ (H621)」の二つの勧告案が2008年8月に Study Group 16 で承認された。

２．ucode に関する標準化動向

ITU-Tにおいて、ucodeを含んだIDコード体系である「H.IDscheme: RFID等のタグ情報の読み込みをきっかけとして提供される複合メディア情報サービスのためのIDスキーム」および、ucode解決サーバーの規格を含む「H.IRP: RFID等のタグ情報の読み込みをきっかけとして提供される複合メディア情報サービスのためのID解決プロトコル」の2つの新規作業項目案が、2008年春の Study Group 16 会合で承認された。(2009年中の勧告化を目標)

３．「場所情報」に関する標準化動向

３.１ 場所に基づくサービス (Location Based Services)

「場所に基づくサービス(LBS)」は、カーナビゲーションのサービスや配送トラックの稼動状況把握、児童等の現在地把握等、場所に関連した情報を提供するサービスの総称である。

地理情報を取り扱うISO(国際標準化機構)のTC211において、サービスの相互運用性を確保するための標準群である、ISO 19132(参照モデル)、ISO 19133(追跡および経路誘導)、ISO 19134(複数モードの経路探索)の国際規格が制定されている。

３.２ ユビキタスパブリックアクセス (Ubiquitous Public Access)

「場所に基づくサービス」の考え方を発展させて、いつでもどこでも位置情報関連のサービスを実現していこうというのが「ユビキタスパブリックアクセス」の概念である。

2007年11月、ISO/TC211において、ユビキタスパブリックアクセスを取り扱うWG10が設立され、現在、対象とする標準化領域(スコープ)についての議論が行われている。

３.３ PI (Place Identifier : 場所情報識別子)

場所は主体や目的により様々な名前(識別子:たとえば緯度経度や郵便番号、住居表示など)を用いて識別され、結果として、同じ場所を示す異なった場所情報識別子(PI)が多数存在している。

同じ場所を示す異なるPIを相互に変換する仕組を構築することで、場所に関係する様々な情報をPIを介して相互に結びつけ、情報の検索や変換を容易にし、情報の利用価値を高めることを可能にするため、標準化に向けた取り組みが行われている。

現在は、国内標準化に向け、(財)日本情報処理開発協会などにより JIS 原案を取りまとめている段階であるが、将来的には上記 TC211/WG10 において国際標準化することを目標としている。

4. 位置特定インフラに関連する標準化動向

4.1 RFID タグ

最新の ISO 18000 シリーズおよびその関連規格では、長波(135KHz)、短波(13.56MHz)、超短波(433MHz、860～960MHz)、マイクロ波(2.45GHz)のタグについて、エアインターフェース、コマンド体系、データ構造、試験方法等が規定されている。

4.2 二次元シンボル（二次元バーコード）

国内では QR コードが広く普及し、国際標準 (ISO/IEC 18004) にもなっている。

4.3 電波マーカ

電波マーカとして利用可能な通信方式の標準規格は多数存在するが、いずれも電波マーカ目的に特化した規格ではない。